

(様式1)

国東市立武蔵西小学校 校長 溝部 剛

平成31年度 学校評価の4点セット(案)

(4月計画 ・ 7月評価 ・ 9月計画 ・ 12月評価 ・ 1月計画 ・ 年度末評価)

学校の教育目標: 郷土に誇りを持ち、目標を定め 考えを表現し 互いを認め合う 西っ子の育成

学校の教育目標 実現のための 喫緊の課題を 踏まえた 重点目標	重点目標に係る 目指すべき子どもの 姿となる 達成指標	達成指標を達成する または近づくための 重点的取組 ※到達像不要	重点的取組に係る 具体的な 取組指標 ※誰が、何を、どれくらいの頻度で	担当	検証・改善				
					取組指標に対する 取組状況の確認		達成指標に対する 達成状況の確認		改善方策
					SAB 評価	取組状況(エビデンス)	SAB 評価	達成状況(エビデンス)	
確かな学力の定着と活用力の向上	○算数の単元テストで目標値を超えた児童の割合を90%以上にする。 (H30) 1学期 90%(97%) 2学期 90%(90%) 3学期 90%(89%) ○市学力調査の算数(活用)の力を伸ばす。 ・昨年度、全国平均を超えた児童は本年度も全国平均を上回るようにする。(12/13) ・全国平均に達しなかった児童は昨年度より10ポイント上回るようにする。(1/13) H30 全国平均を上回った児童14/15 全国平均に達しなかった児童1/15	○西小スタンダード(つかむー考えるー深めるーまとめるー振り返る)の授業の中で、「つかむ」(課題)の提示の仕方の充実を図る。 ○「深める」(交流場面)で、自分の考えを深めるための話し合い活動の充実を図る。	○算数の授業で授業者が、「子どもの興味・関心を高めるための課題の提示の仕方を工夫できた」と判断できた時間数を実施時間数(事前調査・練習・テストを除く)の70%以上にする。 ○算数授業の交流場面において授業者が、「子どもが自分の考えを深めるための話し合い活動」を設定できた時間数を実施時間数(事前調査・練習・テストを除く)の70%以上にする。	研究(溝部)・教務(信原)	S	算数の授業で授業者が、「子どもの興味・関心を高めるための課題の提示の仕方を工夫できた」と判断できた時間数は4.5月【75.2%】6.7月【77.2%】であった。	A	・算数の単元テストで目標値を超えた児童の割合は84%で、達成率は93%であった。 ・高学年では、チャレンジ(数学的な考え方)とまとめのテスト(数学的な考え方)につまずいている児童がいた。	・授業やぐんぐんタイムで、数学的な考え方を取り扱っている類似問題に取り組みさせる。 ・考えを深めるための話し合いで、友だちの考えを想像して説明する活動を増やす。 ・一学期の授業改善の取組を踏まえ「西小授業改善の重点」の改善・充実を図り、二学期に取り組む。
					S	算数授業の交流場面において授業者が、「子どもが自分の考えを深めるための話し合い活動」を設定できた時間数は4.5月【70.5%】6.7月【75.1%】であった。			
					S	・算数・国語の学習個人カルテを確認し、毎回子どもに声掛けを行った保護者の割合は77%(10/13)であった。 ・保護者から、実際に声掛けした言葉がたくさん寄せられた。 ・嬉しいと思う声掛けや行動について子どもにアンケートをとり、結果を保護者に知らせることができた。			
郷土に誇りを持ち実践力の育成	○生活振り返りカードであいさつ運動に取り組んだ児童の割合を増やす。 1学期 85% 5月:84.6% 2学期 90% 3学期 95% ○「友だちのいい所見つけが月4回以上できた」児童の割合を増やす。 1学期 70%(9/13) 5月平均3.9回46%(6/13) 2学期 77%(10/13) 3学期 85%(11/13)	○「生活振り返りカード」を活用して、自分から進んで活動する子どもを育成する。 ○「友だちのいい所見つけカード」を活用して、進んで人のいいところを見つめることのできる子どもを育成する。 ○郷土に誇りを持ち、地域について学習を深める。	○担任が毎月一週間実施の「生活振り返りカード」を活用し、あいさつ運動に取り組めたか振り返らせ、生活指導主任が児童会と連携しながら指導する。 ○「友だちのいい所見つけカード」に友だちの言動で「いいな。真似したいな。」と思ったことを書かせ、児童集会で紹介したり、掲示したりする。 ・月2回の児童集会を設定し啓発を図る。 ○学期に1回以上「ふるさと偉人伝」「地域の文化・産業・生活」「西地区の歴史遺産」の学習に取り組む。	生活(岩尾) 児童会(信原)	A	「生活振り返りカード」は児童・保護者に定着し、確実な取り組みができています。カードを綴じたファイルも全員が提出し担任による声かけができた。生活指導主任が月毎の取り組み結果を全校児童集会で周知し、校舎内に資料掲示したことで意識が高まった。	A	・あいさつ運動の取組状況は、5月【84.6%】6月【98.4%】7月【100%】であった。月平均94%であり、1学期の達成指標を上回ることができた。⇒(S) ・「友だちのいい所見つけが月4回以上できた」児童の割合は、4・5月【46%】(6/13) 6・7月【100%】(13/13)であった。 4～7月【73%】(19/26) ⇒(A)	・「生活振り返りカード」を活用した基本的な生活習慣の確立の方策は、児童・保護者にもマッチングしており、とても有効な手立てであるが、今後取組がマンネリ化することが想定される。取組のマンネリ化を防ぐために、達成できることに褒賞の機会をつくり、掲示物の継続・工夫をしたりして活動意欲を高めていく。 ・「家庭でできる子どもの仕事」「早寝・早起き・朝ご飯」の取組は、生活振り返りカードの活用もあり、すべての保護者がカードのチェックやコメント記述をしており、児童への励ましとなっている。引き続き保護者への声かけをしていく。 ・「ほめほめカード」に日付を入れ、児童会役員が月毎に集計をしやすいように改善し、児童朝会等で全校児童に取組みの状況を紹介し意識を高めていく。 ・拡大運営協議会・運営協議会で決定した取組内容を二学期の始めに全会員に配付し、二学期の取組を周知し活動の充実につなげる。
					A	児童朝会で、毎回、全員がほめほめカード(友だちのいい所見つけカード)を紹介し合うことができた。正面玄関に364枚のカードを掲示することができた。			
					A	・全学年が総合的な学習の時間・生活科で「環境」「地域の生活」「学校の歴史」の調べ学習に取り組む。校内ほたる祭りで発表した。 ・社会科でも3・4年生が「地域の産業」について調べ学習を行った。			
郷土に誇りを持ち実践力の育成	○子どもを見かけたら、あいさつをする。 ○環境整備に協力する。	○それぞれの家庭で子どもができる仕事を決め、毎月一週間の生活振り返りカードを活用して各家庭で声掛けを行う。 ○早寝・早起き・朝ご飯の取組を毎月一週間の生活振り返りカードを活用してチェックし声掛けを行う。	○毎月第1月曜日に老人クラブが3名で正門前あいさつ運動を行う。 ○麻田老人クラブの松の芽摘みの活動等、学校の環境整備に積極的に参加する。	児童会(信原)	A	年度当初に運営協議会で話し合われたことを、地区の老人クラブの方が確実に実行した。登校だけでなく、下校時にも児童に声をかけた。	A		
					A				

S:100%超 A:80~100% B:80%未満